

公会計は予算が、企業会計は決算が重要視されるということがよく言われます。企業会計は決算書によって、利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにします。一方、公会計は予算書によって、公的部門における適切な資金配分を確保します。

しかしながら、予算を重要視し過ぎることの問題点が数多く噴出しています。予算を重要視しすぎると、使い切らなければ来年度予算を削られるため無駄遣いを発生させたり、使い切ったかに見せかけるため裏金となってしまふといった、無駄や不正を生じさせる原因となります。すなわち、配分された予算を使わないということは仕事をしていないという評価をされ、余らせることより使い切ることの方が評価をされるという仕組みがこのような問題を起らせる原因であります。

一方企業会計では、会計年度末の最終利潤が評価の対象ですから、会計年度内でも刻々と変化する社会経済状況に臨機応変に対応しなければならないため、決算書重視になるわけです。従って決算が悪いと粉飾決算が行われたりします。

このように企業会計と公会計の考え方の違いが、行政は甘いと昨今の公務員バッシングにもつながっているのではないのでしょうか。公務員は難しい試験をパスして職についた優秀な人が大勢います。民間は優秀で公務員が劣っていることは決してありません。仕組み自体がそのようなになっているのです。

また、公会計では現金主義・単式簿記、一方企業会計では発生主義・複式簿記が採用されています。例えば箱物を建設した時、企業会計では、減価償却が行われます。また、将来の支出に対し引当金が計上されます。しかしながら公会計では概念自体ありません。

よく言われる建てっ放し、建てたら終わりという、効果が及ぶ期間に対する適正な費用配分という考え方が無いようです。

箱物建設は政治や行政の成果を見せるという上では、非常にアピールする効果を持ちますので、今まで無理をしても建ててきた歴史的経緯があります。

また、公共投資が経済に与える影響が大きいとされた時代から、資産経済が実体経済の4倍といわれる昨今の状況を見ても、余りケインズの政策が実を結ぶとは思われません。従って本当に必要なものを十二分に審議して建設する事に加えて、個々の事業について将来にわたる損益計算をしっかりと行わなければなりません。

しかし、当然のことながら公の事業は、利益を出すことが目的ではありませんので赤字になるからやらないという事業ばかりではありません。損益計算を強調すると、公が果たすべき責務が果たせないこともあり、行政コストとその効果に対する評価が必要です。それには、徹底的なディスクロージャー（情報公開）・アカウンタビリティ（説明報告責任）・市民に対する積極的なPR《パブリックリレーションズ》（積極的広報）、そして最も重要なことは、事業の企画に対してはワークショップ、事業見直しには事業仕分けなどを用いて更に公に対する市民参加を促す仕組みが必要と考えます。

財政は掛けが行う全ての事業の大前提になります。これまで、予算配分の争奪戦に勝つことが、政治家や行政担当部署の大きな手柄であり、長き将来にわたる結果や効果については後始末的で副次的であったのではないのでしょうか？また、そこには市民参加の余地はありませんでした。無駄を省くという事から入るアプローチも必要ですが、抜本的な公会計制度の改革と市民参加に対して、行政は積極的に取り組むことが、公務員の意識改革を誘導し、ひいては本当の意味での市民自治社会へ近づくのではないのでしょうか。

兵庫県議会報告

第二百九十五回 定例議会

県民主権社会を 宝塚から！

第二百九十五回定例兵庫県議会が開催されました。私にとって、議員になって二年目がスタートしたわけですが、更に研鑽に努め、精一杯頑張つて参ります。さて、本議会において井戸知事より、下記のように知事提案が為されました。

- 1, 行財政構造改革 2, 安全と安心 ①防災・減災対策
- ②くらしの安全対策 ③明石海峡での船舶衝突事故
- 3, 環境対策の推進 4, 健康政策対策の推進
- 5, 経済・雇用対策の推進 6, 交流の連携と基盤づくり
- 7, 地方分権の推進 8, 平成十九年度決算見込み

以上のような項目で説明がありました。

行財政構造改革の項目で県では四月から、事務改善等推進本部を設置し、仕事の仕方の見直しに取り組みと知事から説明がありました。組織は人で成り立ちますので、職員の方々が自らのように県民の役に立つ改革を果たしていけるか楽し

みであります。

しかしながら、抜本的な改革を果たすためには大きな制度改革を果たさなければなりません。「公と民」「国・県・市」の役割分担、公会計制度・税にまつわる制度改革他、しなければならぬことは山ほどあります。

また、今期から所属委員会が産業労働常任幹事会から、総務常任委員会に所属することになりました。

この委員会は、21世紀兵庫長期ビジョンの推進とともに、自律・分権型県政の推進、県民とのパートナーシップの構築、多彩な県民文化の創造、総合的な防災・減災対策の推進などについて審査、調査しますが、今まで長い間一市民として社会貢献活動等で関わってきた分野が多いので、大変楽しみにしています。

経験を生かしながら県民の立場に立った意見を述べなければと考えるところです。